

鎮守様にはコノハナサクヤヒメ

逆井漫歩 23

平成12年8月



富士講からなる浅間神社は、千三百社もある。広池学園に隣接して中新宿浅間前という地名があり、そこには立派な浅間神社がある。離れることわずか四キロである。神社は高いところに作りたい、と考えれば、ここは杉木立の中、いくつもの階段を上がる。おそらくコノハナサクヤヒメに

は逆井まで一望できたに違いない。
大杉の根を掘ったら金像が出たそうだ。五百年前の伝説である。そのあとに池ができ、いまでも水をたたえる風情を見せている。

富士浅間神社というのが正式名。逆井地区の百二十名が富士講を作っており、毎年十人が代参に行き、お札を受けてくるという。元禄六年（一六九三）に創祀されたというから、代参も連綿と続いていたのだろうか。延享二年（一七七五）に、古浅間から今のところに移したもので、神社は少しでも高いところに、という願いを込めたものだったようである。この鎮座地がそれほど高いとも思われなければ、水源林だったという、うつそうとした森には神秘感と共に貴重な緑がたつぷり残されている。
祭神は三ギノミコトの女房で、桜の花のように美しいコノハナサクヤヒメ。産土神（うぶすな）は生まれた土地の神であり、氏神は一族の神であり、鎮守様は土地や建物を守る神で、それが混同してしまい、一般的には鎮守様になったようである。そうだとすれば、いくら指呼の間とはいえ、われわれ新開地の住民には、生まれた土地の神でもなく、一族の神でもないのだから、お願い事するのはふりなような気がする。お寺とは違うのだ。
ここには、茨城県稲敷郡の大杉神社も勧請され合祀されている。そのお祭りが同月二十七日。村人「の寄り合いの中を、遠慮しいいお詣りした

7月15日は、逆井浅間神社の夏祭りだった。幟（のぼり）が立てられ、道に灯籠が飾られた。「村の鎮守の神様の／今日はめでたい御祭日（おまつりび）」という、その昔の唱歌を口ずさみながら参拝してきたが。



邇邇芸命（ににぎのみこと） 木花咲耶姫神（このはなさくやひめのかみ）

石長姫神（いわながひめのかみ） 大山津見神（おおやまつみのかみ）